

会報

第153号
房総石造文化財
研究会

四月。陽射し暖かい季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

お彼岸が過ぎ、桜も見頃を迎えて、石仏に会いに行きたくなる季節の到来です。

昨年度中は当会の活動に多大なご協力を賜り、まことに有り難うございました。コロナ禍で自粛していた会の行事も徐々に平常に戻り、令和六年度には、石仏見学会、勉強会、石仏ゼミナールに加え、令和元年から中断していた、バス研修旅行も復活いたしました。

これもひとえに、会員の皆さまのご協力のたまものです。

当会は昭和五十五年（一九八〇）に発足しました。今年がちょうど四十五年の節目の年とな

会報一五三号 目次

◆四月 石仏見学会のご案内

〈一頁〉

◆令和七年度の行事予定

〈二頁〉

◆五月 定期総会のご案内

〈三頁〉

◆《会員投稿》疫病流行と千葉市内の瘡瘡
神塔建立の関連

林 毅氏 〈三頁〉

◆事務局より（ご投稿のお願い）

〈四頁〉

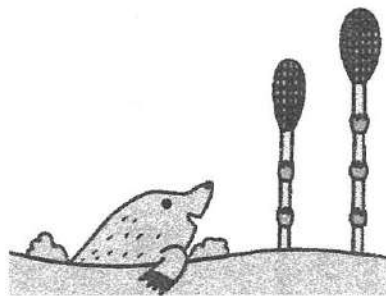
ります。昭和五十五年は「庚申（かのえさる）」の年で、庚申といえは庚申塔。こういう年に発足したのもおもしろい御縁だと思います。

四十周年記念として計画した『房総の石仏新百選』刊行などの事業はコロナ禍の期間に休止せざるを得ませんでした。一昨年度から再開し、現在肅々と進めているところです。

特に『房総の石仏 新百選』は、今年度もできる限り毎月編集会

議を開くようにして、早く刊行できるように頑張りたいと思います。

編集にあたり、今後、皆さまにご協力を仰ぐこともあるかと存じますが、何卒よろしく願いいたします。



今年度も月ごとの行事を実施してまいりますが、皆さまからのご要望やご提案がありましたらぜひ事務局へご連絡ください。勉強会での発表や事例報告、見学会でのコースの推薦など、首を長くしてお待ちしております。

勉強会の会場は千葉市民活動支援センター（ちばさぽ）を借りておりますので、会場の都合上、平日に開催せざるを得ないこともあります。見学会は週末に計画することが多いです。ご都合がよろしければ、ぜひぜひ皆さまにご参加いただければ幸いです。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

（事務局一同）

四月 石仏見学会のご案内

船橋市薬円台周辺の石仏をめぐる

三月にハガキでもご案内しましたが、次の日程で見学会を開催いたします。多くの会員の皆さまにぜひ参加していただきたいと願っております。

◆日時 令和七年四月二十六日（土）

◆集合 十二時

新京成電鉄 薬円台駅改札前

◆解散 十六時 船橋市郷土資料館（予定）

◆会費 三百円お願いします

◆申込は前日までに事務局へ！

久しぶりの船橋市薬円台の石仏巡りです。

薬円台（薬園台）は、江戸時代中期の本草学者で幕府の医員であった丹羽正伯（にわしょうはく）と江戸の薬種商・桐山太右衛門が、幕府から薬草園用地として三十万坪を預けられ、薬草園を経営したことに由来する地名です。古くは「滝台野」とか、丹羽正伯にちなんで「正伯新田」とも呼ばれていました。幕府の薬草園では江戸の小石川養生所（幕府直営の療養所）で使う薬草や朝鮮人参などを栽培しました。朝鮮人参は輸入に頼っていたのですがあまりにも高価なため、効能があっても一般の人には手に入りませんでした。

勉強会の際に、疱疹は毎年流行る年中行事のようなもののお話もありましたが、関連は見られるものの必ず関連があるとみることは難しいと感じられる結果となりました。

<https://sites.google.com/view/boseki-ken>